

(1)

問一	⑦ 服従	⑧ 締め	⑨ 要請	⑩ 親和	⑪ 継承
問二	<p>民衆が、国民化によって受動的な被支配者ではなくなり、国家の主体となることで、国家がつくるセキュリティを自らのものとし、不慮の事態に対する生活の保障を得ること。</p>				
問三	<p>民衆の大部分が国民として国家の側につくことよって、国家による合法的暴力の独占の安定化と内戦のリスクが大幅に減少することになり、国家はもはや民衆を支配するために対立する必要がなくなったから。</p>				
問四	<p>以前の国家は国民と一種の「セキュリティ協定」ともいえる関係であったが、現在は軍事的にも経済的にも国民という形態に依拠する必要性から脱し、領土内における住民全体の生存条件を整えることは見返りのすくない非効率な作業と捉えられ、脱国民化しつつあると見ている。</p>				
問五	<p>ポピュリズムが、民衆と国家のセキュリティの絆がほころびつつあるため、絆を結びなおそうとしてセキュリティの保障を要求する一方で、国家の社会空間と領土的空間とが一致しなくなっているために、セキュリティの問題を人種的アイデンティティのシェーマと結びつけ、国家の領土的枠組みをこえてセキュリティを追求するようになること。</p>				

(2)

問一	⑫ あこがれ	⑬ たぐり	⑭ なぐさめ	⑮ のせ	⑯ ほったん
問二	<p>自分に小説家としての運や意気地がなく、平凡な生活に甘んじて生きていかなければならぬいとしても、自分の生きる意味そのものとしての作品を創り上げたいという希望を持っている。</p>				
問三	<p>極度の貧困にあえぎ、喧嘩の絶えない毎日を送っている中で、無邪気な小犬の存在が灰色の荒んだ生活に明るさをもたらし、何とか夫婦の日常を成り立たせていたということ。</p>				
問四	<p>義男は夫婦で小説家を目指していくというこれまでの状況に限界を感じ、生活の経済的基盤をみるに支えて欲しいと思っていたが、みるが生計を支えるために小説を書いて収入を得るなどとは考えもせず、ただ小説を書くという自分の夢を実現させることに拘泥している点で非難している。</p>				

(3)

問一	①	咲く花が色美しく映えるように
	②	我が天皇が立派にお治めになる
問二	グループ(1)	a d e
	グループ(2)	b c
		理由 グループ(1)は強意の副助詞「し」であり、グループ(2)は過去の助動詞「き」の連体形であるから。
問三	<p>「奈良の都を恋しく思いますか」と大伴四綱に問いかけられ、大幸帥大伴卿は「奈良の都を見ずに終わるのではないか」との不安、さらに古里への望郷の念を強くし、物思いに沈む。そして都を忘れるために忘れ草を紐につけ、最後の歌では「私の旅は長いことではないだろう」との思いへと変化している。</p>	
問四	<p>沙弥満誓の歌は、都からはるか遠い筑紫にあって「筑紫の綿は暖かそうに見える」と、現実を樂觀的に受け止めており、帥大伴卿のひたすら都を思う一連の歌の流れを断ち切る働きをしている。</p>	
問五	貧窮問答歌	

(4)

問一	① いえども	② あえて	③ ごとき
問二	<p>天下は重大なものである。しかし、天下のために自分の生命を損なうようなことはしない。さらに、まして病気のために生命を損なうことは、なおさらしないのだ。</p>		
問三	<p>君と為るを悪むに非ざるなり。君と為るの患ひを悪むなり。</p>		
問四	<p>越王という地位よりも自分の生命を重んじて、王となることを拒むという考えを持っている王子 搜ならば、王として信頼できると人々が熱望したから。</p>		
問五	イ		